

Frente

vol.74
2018.8

特集
インタビュー

不定期連載インタビュー

フレンティが聞く！みえのひとびと 第9回

かぶせ茶カフェ

(有)マルシゲ清水製茶

清水加奈さん

「自分らしく、始めてみなくっちゃ！」

イベント Report !

- 男女共同参画 連携映画祭2018
- 育休ママのつどい「子どもができたあなたへ。育休中に描くママのこれからの働き方」
- 女性のための自己主張・自己尊重トレーニング

連載!

- エッセイ
「あなたにとって大切なものは何ですか？」
柴田 佐織さん
キャリアコンサルタント、
株式会社ワーク・ライフバランス
認定上級ワーク・ライフバランスコンサルタント
- フレンテスタッフリレーコラム
「ワタシと男女共同参画」《第2回》

事業ご案内

- 男女共同参画フォーラム～^{ひと}みえの男女2018～
「女性の可能性が開く未来、
男性が取り組む・変える未来」
- 女性のための暴力防止セミナー ほか





不定期連載インタビュー
フレんティが聞く!

みえの ひとびと

第9回

いまだ昔ながらの家族観で経営している農家も多いなか、四日市で「三重県のお茶、かぶせ茶」を1人でも多くの方
に知ってもらいファンになってもらおうと、いきいきと活動
している女性がいます。

専業かぶせ茶農家の長女として生まれ、進学・就職した東京生活からの帰郷を機に夫と2人で就農。2010年には旧自宅に「かぶせ茶カフェ」を開業し、PRや消費者との交流を続けている清水加奈さんの仕事、家族の姿とは。みえのひとびと第9回、ごゆっくりお楽しみください!



かぶせ茶カフェ
清水 加奈さん



東京ではどのくらい暮らしていらっしゃったんですか?

18~25歳までの7年間です。

最初からお茶の仕事に携わろうと思っていたのですか?

自分は6歳から「跡取り」と言われて育てられましたし、当時は、水沢町すいざわちょうと言えば四日市ではお茶処として名が通っていてそれが当たり前でした。でも、農業大学への進学で三重から出てみると、全国第3位(中でもかぶせ茶は1位なのに)そんな三重のお茶のことを誰も知らなかった。家がお茶農家だというと静岡の人と思われて、それが悲しいし、悔しいし、びっくりでした。それならもつと三重のお茶を知ってもらいたい。そう思ったことが大きいです。

自分の家に常にお茶があったので自分では他のお茶を飲んだことも買ったこともありませんでしたが、三重を出てお茶の小売店で働いたりしてきたなかで、「三重のお茶はいける!」ということにも改めて気付いて、自信にもなりました。

最初からお茶の仕事に携わろうと思っていたのですか?

25歳で三重に戻ったのは一大決心、「ターニングポイント」でした。当時はそれほど「決断!」という感じではありませんでしたが、後悔はまったくありません。離職と三重へのUターンと就農と結

婚がすべて一緒のタイミング。1年くらい経って子どももできましたが、それまでは畑仕事も小売りもすべて携わっていました。妊娠してからは機械の扱いなどで危ないこともあるので畑へは出ないようになりましたが、出産後、「マーケティングゼミ(※)」に参加して勉強を始めたりするなかで、子育てしながら仕事もできるかなと思うようになりました。

東京で生まれ育った夫さんは、新しい土地で「就農」されました。大変だったのでは?

交際スタートのときにいずれ三重に帰ることは伝えてありましたが、結婚するということは三重と一緒に農業をするのが前提だと覚悟があったと思います。夫も30歳くらいだったので、新しい道へ賭けたところもあったようですね。最初は友だちもいなかったのですが、消防団に入って変わりました。いまは地域のいろんな方たちと親しくしていただいています。

いま、私たちのお茶の仕事は自然と業務が分かれていて、夫と父が畑や製造関係を、私は母と小売りやカフェの仕事をしています。

お子さんがお2人いらっしゃいますが、農業と家庭、子育ての両立は大変ではありませんでしたか?

お茶農家は農繁期とそうでない時期の差が大きく、忙しい時は体力勝負のところもあります。子どもが夜泣きする時期は夫がよく眠れるように

子どもと実家へ身を寄せるなど、負担が少なくなるように工夫しました。

農家も割と「ごはんをつくるのはお母さんの役割」のような感覚があったりしますが、夫はそういう「家事や育児は女性の仕事」という感覚は比較的うすいように感じます。いま自分は畑に出ていないので食事をつくることが多いですが、自分が不在のときは夫が食事をつくります。子どもは自分より夫のつくるチャーハンの方が好きみたいですよ。会社勤めとは違って農家の仕事だと家族は朝昼晩お家でごはんを食べますし、子どもと一緒にいる時間も長いので、家のことも、おむつ替えやお風呂など育児のことも「なにかをやってください」ではなく、夫婦どちらも気づいた方がやるような、「対等」な感じでやっています。

様々なメディアでも話題になっている「かぶせ茶カフェ」ですが、始めるきっかけは?

「マーケティングゼミ」への参加もきっかけのひとつです。ほかに、子どもが学校から帰ったときに家にいられたらいいという想いや、お茶の小売を伸ばしていきたいという想いなどいろいろありますが、一番は「かぶせ茶のことを知ってもらいたい」という気持ちです。また、東京でお茶の小売店で働いていたとき、幸いなことに「日本茶カフェ」起ち上げのプロジェクトメンバーに加えてもらい、そのカフェの店長も務めました。先輩や上司にも恵まれて本当に楽しく充実した毎日でしたが、その時に得た様々な知識や経験、ノウハウがあったことで、「やれるな」と思いました。

「かぶせ茶カフェ」の開業について、ご家族はどんな反応でしたか?

30歳でかぶせ茶カフェを始めようとしたとき、実は母は反対でした。子どもがまだ1歳半のころで子育てに手が掛かるなか未知の世界に無計画に踏み出すことが心配だったのでは…。でもいまは一番の協力者です!

男性陣はいかがでした?

夫と父親は、いつも私の「味方」です! 何か新しいことをやっていかなければ、という考えの人たちですので、前向きでした。また、夫は東京育ちで農家出身でもありませんから「外からの目」を持っています。農家目線ではなくお客様に近い目線で見ることができるといのは、どんなニーズがあるかを考えるためにとても大切な視点で、

(※) 四日市鈴鹿地域農業改良普及センターが開催した、農の異業種・世代間交流をしながらマーケティングを学ぶ講座。



頼りになります。反対だった母を県外の妹のところへ1週間遊びに行かせて、その間に味方である夫と父と3人でここをカフェにしちゃったんです。

でも、いちばんの苦労はやはり子育てとの両立でしたね。まだ子どもが小さかったので。ただ、農家は子どもを背負ってでも仕事はできますし、自営業だから休みたいときに休める。子育てとの両立には向いているかもしれませんね。いまは三重に戻った私の妹も含めて、家族みんなで子育てをしています。

そのおさんたちは、お家のお仕事をどんな風に見られているのでしょうか。

下の弟は、「昼はお茶農家で夜はプロ野球選手をやる」って言ってます。夫は自分の代で終わらせたくない気持ちがあるようで、息子にそんな話をしているようです。お姉ちゃんには別の夢があってそれに向かってがんばっていますが、新茶の季節は畑もカフェもとても忙しく、その時期はお姉ちゃんがとても頼りになります。息子も手伝ってくれますよ。

清水さんは四日市の若手女性お茶農家グループ「四日市茶農家女子会」や農業女子プロジェクトのメンバーとしても活躍されていますが、まだ農業の分野は男性中心でなかなか女性が活躍しづらいイメージがあるように思います。

いまは機械化も進んでいますし、お茶農家で結構女性ががんばっていますよ。もちろん危ない作業もありますが、どちらかというと「男・女」というより「個人」の性格や能力によるのではないのでしょうか。うちの場合も夫がもし接客の方が得意なら、夫が中心になってカフェをやっていたかもしれません。

農業は家族単位で携わることが多く、男性が中心で畑仕事をして女性はその下で「手伝う」という意識がありますし、だんだん変わってきているとは思いますが、まだ農家では、本当は主力なのに「手伝い」になっている女性や「我慢」をして

いる女性があります。

私は、畑仕事だけではなく、その農家で作ったものを販売することもカフェをすることも「農業」だと思っています。そう考えると、うちは女性の立場がすごく「対等」です。仕事として、ぶつかり合っています。それはきっと、お互いに強い責任感をもって仕事に臨んでいるからだと思います。

農家は経営の面でも男性中心になりがちですが、最終的に商品を買うのは女性が多いので、家族経営のなかで女性の声が出にくい感じがあるとしたら、それはとてももったいないことだと思います。昔ながらの考えを変えるのは難しいかもしれませんが、若い人たち、これからの人たちが周りを巻き込んで、諸先輩方に協力してもらいながら少しずつ意識を変えていければいいですね。

これからどんなことにチャレンジしていきたいですか？

いまは何かと情報ばかり先に出て、ハードルが高くなってしまっているのではと思います。「お茶の葉を何グラムで何度のお湯で何分で淹れる」みたいな…。昔の人はそんな風にお茶を飲んでいませんよね。もっとフランクに気軽に、好きなように飲んでもらえばいい。美味しくなあれと願って淹れるお茶の方がぜったいに美味しいと思う。そういうことを伝えていきたいと思っています。

かぶせ茶は、玉露と煎茶のあいだで渋みが少なく飲みやすいお茶です。まだまだ可能性がいっぱいある。知られていないのはチャンスでもあります。知名度がないことをプラスに、逆手にとって、これから「日常のお茶」としてかぶせ茶をもっと楽しんでもらいたいと思います。

最後に、新しいことにチャレンジしたいけど踏み出せないでいる人たちにメッセージを！

私は、「背伸びをしないで身の丈のことから」というマーケティングゼミでの教えがとても参考になりました。

できることから無理せずやればよいと思います。そして、頼れるところは頼る、甘える。迷惑をか

けてもいいんじゃないですか。応援してくれる人もいっぱいいますし、仕組みもいっぱいあります。けっこうなとかなるものですよ！

終始明るくはつらつとお話をしてくださった清水さん。かぶせ茶農家の女性の活躍には、いつも味方の夫や父親、一番の協力者の母親、そして子どもたちをはじめ、地域の皆さんや消費者などたくさんの方が力になっているように感じられました。

今後も、お茶農家と消費者の橋渡しをしながら、仕事も家庭も楽しみながらいきいきと働く姿を応援していきたいと思っています！

(有)マルシゲ清水製茶 かぶせ茶カフェ



〒512-1105 三重県四日市市水沢町998
TEL 059-329-2611

営業時間／木・金・土(10:00～17:00)

<http://www.marushige-cha.jp/about/cafe.html>



事業予告

11/10

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2018～

『女性の可能性が開く未来、男性が取り組む・変える未来』

同時開催：「第31回 農山漁村のつどい」

世界各国の男女格差を数値化したジェンダー・ギャップ指数の順位(144カ国中114位)にも現れているように、まだまだ男女格差の問題が根深い日本。そんな不平等を無くし、女性の可能性が開かれた社会を実現するためには、男女格差の問題を女性だけのものにせず、男性を含む誰もが一緒に考えていくことが求められているのではないのでしょうか。

今年の男女共同参画フォーラムでは「女性の可能性が開く未来・男性が取り組む・変える未来」をテーマに、様々な団体の活動紹介や講演を行います。

女性も、男性も、すべての人々が、男女格差のない「ジェンダー平等」の社会を実現するためにどう考え、どう行動を起こすべきか、一緒に考えてみませんか。

日時 2018年11月10日(土) 10:00～16:00 (予定)

会場 三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」多目的ホールほか

主催 三重県
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

共催 「第31回農山漁村のつどい」実行委員会

潘基文国連事務総長とエマ・ワトソンUN Women親善大使により発表されて以来、各国首脳やCEO、著名人をはじめあらゆる階層の人々により、現在世界で160万人以上、日本でも5,100人以上が、男女平等の世界を目指し署名を行っています。

三重県内男女共同参画 連携映画祭2018

開催日 6月9日(土)
8月18日(土)



毎年6月23日から29日は、国の主唱する「男女共同参画週間」です。この期間を中心に、「映画を通して男女が共に生きるヒントを見つけよう!」を合言葉に県内の市町が連携して開催しているのが「三重県内男女共同参画連携映画祭」。2007年に3つの会場から始まったこの映画祭は、みなさまからのご好評の声をうけ今年でついに12年目。年々連携の輪が広がり、今年は県内19会場で開催。盛況のうちに終了しました。

今年も、上映にあわせ、作品を通して男女共同参画をさらに深く理解していただくためのプレトークやアフタートーク、市町での男女共同参画の取組紹介を行うなど、会場毎に工夫を凝らし、「男女が共に生きるヒント」を伝えました。LGBTや女性活躍をテーマにした作品、家族で楽しめる作品などもあり、様々な世代、性別、それぞれの立場から、家族とのつながりや自分らしい生き方などについて考えるきっかけとなりました。

事業予告

10/6

防災・減災と男女共同参画 ～だれもが安心・安全な避難所とは～

・地域リーダー養成講座

地域で男女共同参画の視点をもってリーダーシップをとり活躍できる人々を養成する「地域リーダー養成講座」。今年は防災・減災をテーマに明和町で行います。

将来、高い確率で大規模地震の発生が予想されている三重県。過去の大災害時は、災害による直接の被害だけでなく、避難所での過酷な生活による被害も報告されています。地域の防災力を高めるために求められるのは、迅速・確実な避難行動とすべての人にとって安全・安心な避難所を作ることなのではないでしょうか。

この講座では、大規模災害が発生したとき、被害を最小限にするために避難所運営に求められる「多様性配慮の視点」、そしてその視点を身に付けるために、日頃から心がけるべきことをこれまでの大災害での事例紹介を交えた講義やワークを通して学びます。

地域の、そして自分自身の防災力を高めたいという思いを持った方のご参加をお待ちしています。

日時 2018年 10月6日(土) 13:30~16:00

会場/明和町人権センター多目的室

定員/40名

対象/地域防災活動や
本講座のテーマに関心のある方

主催/明和町
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

この講座は伊勢市でも10月28日に開催予定です。
詳しくはフレンテみえまで!

女性のための 自己主張トレーニング・自己尊重トレーニング

開催日 5月9日～6月6日

開催日 6月23日～7月21日

毎年ご好評をいただいているフレンテみえの女性向け講座。今年は5月9日～6月6日に自己主張トレーニング講座、6月23日～7月21日に自己尊重トレーニング講座を実施しました。

自己主張トレーニングは、「自分も他人も尊重した自己表現」ができるよう、結果や周囲を気にしすぎ言いたいことが言えない、自分を犠牲にしてしまう等の悩みを参加者同士で語り合い、自分の気持ちも相手の気持ちも大切に相手に伝える力を身につけて育てる講座です。参加者からは「自分優先にしてきたつもりが、無意識に他者優先で暮らしていたことに気づいた」「自分の考え方のくせに気づくことができ

た」などの感想が聞かれました。

また、自己尊重トレーニングは、自分を大切に、自分を信じる力を再発見する講座です。いつも自分のことを責めてしまう、相手から褒められても素直に受け止められない、自分に自信がない、という想いを抱える参加者が、話し合いを通じて自分自身の気持ちを受けとめる作業を行います。講座の終わりには、気功（自分で日々心身を整え、生活を豊かにしていくこと）を行いリラックスして終了します。参加者からは、「自分には権利が無いと思っていたが、自分を取り戻そうと思った」などの意見が寄せられました。

事業予告

11/18

女性に対する暴力防止セミナー 漂流する少女に寄り添って

11月12日から25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせて、フレンテみえでは毎年「女性に対する暴力防止セミナー」を行っています。

今回は、少女たちが安心して暮らせる社会を目指すために何ができるかについて、NPO法人BONDプロジェクト代表の橋ジュンさんにお話をさせていただきます。

貧困、虐待、デートDV、性的搾取など、少女や若い女性が抱える生きづらさは、社会が抱える問題と繋がっています。そのような状況の中、孤立感を抱えさまよう少女たちを支援するために、大人たちは何ができるか考えてみませんか。

日時 2018年 11月18日(日) 13:30～15:30

会場 / 三重県文化会館 大会議室

対象 / テーマに関心のある方

講師 / 橋ジュンさん
(NPO法人BONDプロジェクト代表)

11/10
~25

内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」 総文パープルライトアップ2018

毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」(パープルリボン運動)期間です。

女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、今年も総文の広場を紫色にライトアップします。この優しい紫色の光には、「ひとりで悩まず、まずは相談をしてください。」というメッセージが込められています。より多くの方々にこのメッセージが届くことを願って、ライトアップを行います。皆さんもぜひお立ち寄りください!



日時 2018年 11月10日(土)～25日(日)
各日17:00～21:00

会場 / 三重県総合文化センター祝祭広場ほか

情報コーナー
ミニセミナー

開催日 6月20日(水)

育休ママのつどい 子どもができたあなたへ。 育休中に描くママのこれからの働き方



産休・育休中のママたちで集まって、復帰後の不安やこれからの自分の働き方、子育てと仕事の両立などについて、みんなで話をしながら考えるミニセミナーを実施しました。

子どもと少しの時間離れ、それぞれの思いを話したり先輩ママの経験談やアドバイスを聞いたりする中で、「復帰に向け不安しかなかったが、仕事をやっていけるかも、やっていきたいと思うようになった」「(家事を全部自分がしていたが)夫とも話し、少しずつ復帰に向けて共働きモードに移行していきたい」「自分のできること、できないことを整理し、まわりにもきちんと伝えていこうと思う」などの声が聞かれ、子育て中心の毎日から、自分や未来に目を向け、復帰後の仕事や生活についてもそれぞれ具体的に考える時間となりました。

事業予告

11/24 女性のためのエンパワーメントスクール i SELECT SHOP by I LADY.

「タブー視されて話題にしにくい」「やっぱり恥ずかしい…」
日常ではなかなか口にできない“性”のこと。でも“性”を『自ら選択する』することは『自分の生き方や自分の人生は自分が決める』ということ。自分らしい人生を自分で決めるためには、自分の“性”と“身体”に向き合うことがとても大切なのです。この講座では、“性”を『自ら選択する』大切さのお話はもちろん、身体のケアのことからパートナーとの関係、性感染症に関することなどの課題に、セレクトショップで買い物を楽しむ感覚で回答を選んでいく体験型ワークショップなどを実施。“性”に関するさまざまな問題を、自分自身のこととして考える時間です。
ぜひご参加ください。

日時 2018年11月24日(土) 14:00~19:00
会場 / サークル室
参加費 / 無料
定員 / 20名
対象 / 大学生を中心とした10~20代女性
講師 / 国際協力NGOジョイセフ

「フレンテみえ」生みの親！ 土川禮子さん 内閣総理大臣表彰受賞



三重県で長年女性政策に携わり、三重県女性センター（現・男女共同参画センター「フレンテみえ」）の開設に尽力された社会福祉法人清泉福祉会理事長の土川禮子さんが、「平成30年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。先日、総理大臣官邸で安倍首相から直接授与された表彰状や記念品をもって、フレンテみえを訪れてくださいました。

土川さんは、小学校の校長を務めたのち県の女性政策に関わり、センター開設や日本女性会議（2000年・津市）実行委員長のほか、津市や鈴鹿市、尾鷲市などの男女共同参画審議会会長等を歴任。豊富な知識と経験で、

の男女共同参画社会づくりの推進に長年貢献された功績が評価されての受賞です。

周りまで明るく朗らかに包み込むお人柄の土川さん。センター開設時を振り返り、「手を抜かずしっかりとした建物でありながら、訪れる方が気兼ねなくどんな催しにも参加しやすい、利用しやすい施設になるようにと願って」務められていたとのこと。

三重県で4人目となる今回の受賞（官房長官表彰を含む）。記念品のクリスタルトロフィーのように「人々がなないうるに輝くような、多様性あふれるまちづくりをすすめていきたい」と話していらっしゃいました。



「あなたにとって大切なものは何ですか？」

～第2回 仕事より大切にしたいもの～

柴田 佐織

毎回ご好評いただいている情報誌エッセイ。今年度は「自分らしい働き方・生き方」をテーマに、講演活動やコンサルタントとして県内外で活躍されている柴田佐織さんのスペシャルエッセイを、4回にわたってお届けします！

「自分らしい働き方・生き方」をテーマに全4回シリーズでお届けしているスペシャルエッセイの第2回。働き方改革の取組で全国に知られる株式会社エムワンの「改革現場」のお話です！

前は私が働き方を変えよう!と思ったきっかけをお話させて頂きましたが、今回は私が本業で働いている株式会社エムワンでの「ワークライフバランス」の取組を通して、社員のみなさんの「ライフ」が変わっていったお話を2回にわけてご紹介したいと思います。

株式会社エムワンは松阪市にある調剤薬局です。私が入社した当時は人手不足のためギリギリの人数で店舗を回していたので、誰かが休むと当然残業になりますし、今ほど有休も取得出来ていませんでした。ましてや新卒採用なんてとてもムリ…。ですが社長からお願いされたのは「新卒採用」です。前職からの繋がりもあり大学周りなども行ってはいましたが、それだけでは学生には当社を知ってもらえません。何か差別化をしないと、と考えていた矢先に女性社員2名から同時妊娠の報告を受け、育児休業に入ることになりました。おめでたいことではありますが、本当に現場が回らない!それが本音でした。

そんなとき、三重県の「ワークライフバランス推進サポート事業」が始まり、少ない人数でオペレーションを回す「ノウハウだけ!」がとにかくほしくて応募した、というのが最初の動機でもあります。

働き方改革なんて大げさな事をしないといけない気がするし、時間もかかって面倒だからやめておこう、と思われている経営者さんがいらっしゃるようでしたら、始める時の動機なんて小さいことで良いと思うのです。まずは不安があっても“一歩”踏み出してみることが大切だと思っています。

当社は始まる前に全員にアンケートを行いました。結果はさんざんなことに…。社長と一度は心が折れましたが、心が折れたところで人手不足がこの先解消されるわけでもない、もうやるしかありません!アンケートの中でも比較的協力してくれそうな社内キーパーソンを見つけだし、その方が所属している店舗をトライアル店舗としてお願いしました。また、この店舗で1名育児休業が出たことでより“自分ごと”として身近に感じて取り組んでもらえるのではないかと思ったからです。

取組店舗の管理職の女性はそろそろ出産も考えないといけないう年齢になってきていました。でも、彼女の中では当時はまだ結婚に踏み切れない、それは仕事のことが気がかり…。そんな印象がありました。また、部下の女性のみなさんも20代後半

で全員独身。「そろそろ結婚したいなあ」くらいに思っていたと思います。確かに今は全員独身だから好きなだけ働けるし、お金も時間も自由!でも「5年後どうなっていた?」「今だからやりたいことってある?」など仕事に直接関係のないことも、会議でワークショップをしながら、ライフの時間をどう使うかなどキャリアも含めて全員で「共感・共有の場」を作り、“自分にとって本当に大切なものは何か?”に気づききっかけづくりと対話の時間もたくさん作っていました。

この店舗の目標は1名減でも「有休取得100%」! 始まる前は「ほんとに休めるの?」「逆に仕事が増えない?」という不安を抱えたまま8か月を走り続けていたと思います。

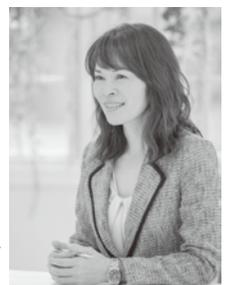
正直、この間に取組をやめようと思ったことが何度もありました。進めていくうちに、社員同士が揉めて関係性が悪くなったこともあり。ここでは書ききれないくらいみなさんと時間を使って対話を重ね、個人の価値観を尊重していくことの大切さを改めて痛感させられました。

確かに取り組みだすと想像以上に大変なこともあります。終わってみればこの店舗の社員全員が結婚し、管理職の女性が育児休業をとることになるとは当時は想像もしていませんでした!何より先日テレビの取材が入った際に社員のみなさんが、「もっと早くやればよかった」と言ってくれたことで諦めずにやり続けて良かった!と心から思えた瞬間でした。

今回は、具体的な取組やワークライフシナジー効果、断念しない働き方改革の進め方についてお話したいと思います。

柴田 佐織(しばたさおり)

キャリアコンサルタント(国家資格)
米国 CCE, Inc. 認定
GCDF-Japan キャリアカウンセラー
株式会社ワーク・ライフバランス
認定上級ワーク・ライフバランスコンサルタント
アングーマネジメントファシリテーター



企業での採用・人事・労務・経理・営業・業務改革など様々な部署を経験。30代で自身のハードワークと病気の経験からワークライフバランスの必要性を感じ始める。現在は、株式会社エムワン人事部課長。2015年度三重県「ワークライフバランス推進サポート事業」に応募し、自社の働き方改革に着手。約1年間取組んだ結果、取組店舗の有給消化率前年比352%UP、次年度はこの取組を採用活動に活かし、ナビサイトエントリー数5倍、新卒採用数前年比2.75倍、出生率前年比2.5倍という結果に繋がった。その後株式会社エムワンの子会社として働き方改革コンサルティング会社「株式会社CREA」を設立。現在、県内外でワークライフバランスや働き方改革、イクボスを推進するためのセミナーを開催。

フレンテスタッフ
リレーコラム

第2回

「ワタシと男女共同参画」《4回シリーズ》

私のことは私が決める ～相談員の声～

子どもの頃、私がどんな服を着るか、門限、進路先、人に対してどう接するかなどを決める「ボス」は親でした。細かいことを言うのは母親でしたが、その上には父親がいて、父の言うことには誰も逆らえませんでした。

結婚してから「ボス」は夫になりました。私がどんな人と付き合うか、何時までに帰宅しないといけないか、働くかどうかなど、夫の許可が必要でした。私には常に「ボス」がいて、その「ボス」が私のことを決めるので、自分自身のことなのにどうすればいいかわからない、決められない。子どもができると、自分のことはすべて後回し。さらに不自由になりました。良き妻、良き母、良き嫁と周りに思われるよう、ありのままの自分ではない理想の女性にならうと必死でした。周りに合わせてばかりで、自分は何が食べたくて、何色が好きで、どんな風に生きたいのか全くわかりませんでした。どんなにほめられても、周りに合わせて必死で作っている姿なので、私自身をほめられたわけではありません。幸せなはずなのに、自分に自信が持てず、空虚で、どこにも居場所を感じられない。そんな風に感じる自分を責めました。

そんな時に、社会の中で女性として生きることやその心理をひもとく「フェミニストカウンセリング」に出会いました。

私の抱えていた生きづらさは、私だけの問題ではありませんでした。多くの女性が私と同じような気持ちで日々暮らしていることも知りました。生まれた場所も、学歴や職業、家庭環境も全然違うのに、「女性」というだけでなぜこんなに同じ思いを抱いているのか、考えさせられました。

今も、相談室で相談者の話を聴いていて思います。「この方は、私だ」と。

自分のことを自分で決める機会を今まで与えられなかったのですから、人生の岐路に立ったとき迷うのは当然ですよね。「自分で決める」ということは、結果にも責任を負うということ。初めは人からどう思われるか、失敗したらどうしよう、と考えると怖くて、小さなことでも長い時間をかけ、それでも簡単に決断できませんでした。人に決めてもらうことは、決めた人のせいにはできる分、ある意味「楽」ではあります。けれどこの世に一人しかいない大切な自分のために、自分で考えた中で最善の選択をし、結果を受けとめ引き受けて、また次の選択をする。そうしてみると、本当にすがすがしく、充実した毎日だと感じます。その選択の方法が「ありのままの自分」とはどういうものかを教えてください。

「フェミニストカウンセリング」と「男女共同参画」に出会った私は、フレンテみえ相談室で相談員をしています。フレンテみえ相談室は、『同じ女性として、対等な関係の中で一緒に考える』ことを大切にしています。自分で責任が持てる納得のいく答えを見つけるために、考えましょう。私たちも一緒に考えます。

けれど、決めるのはあなた。あなたの「ボス」はあなた以外にいないのですから。

このコーナーでは、毎回フレンテみえの職員がそれぞれの仕事を通して感じる「男女共同参画」への想いや考えをリレーで綴ってまいります。次回もお楽しみに！

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ



生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

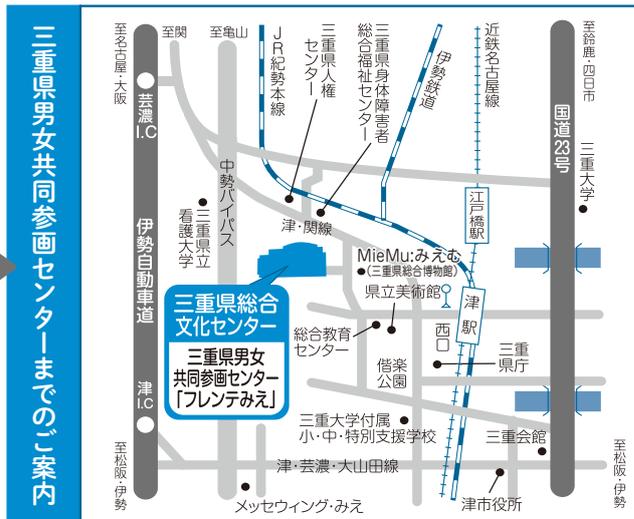
フレンテみえ 専用ダイヤル 059-233-1133 相談室

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00		●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30		●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00～19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか女性のための面接相談・法律相談・男性のための電話相談・LGBT電話相談を実施しています。詳しくはお問合わせください。

フレンテみえ相談室のご案内 (切り取ってご利用ください)



- 休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日)
- 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分 ■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1,400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL 059-233-1130 FAX 059-233-1135
URL https://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。